

## 会議概要

- 1 審議会 令和8年度 第2回 安曇野市総合計画審議会
- 2 日 時 令和8年7月31日(木) 13時30分～15時30分
- 3 会 場 議会全員協議会室
- 4 出席者(敬称略) 赤沼委員、赤羽委員、尾碁委員、佐原委員、高橋委員、中島委員、柳澤委員、吉田委員、勝家委員、木村委員、浜田委員、池上委員、伊藤委員、小穴委員、栗原委員、小山委員、筒井委員、中林委員、平沢委員、若林委員
- 5 説明者等 小林政策部長、白鳥政策経営課長、今井企画担当係長、永田主任
- 6 庶務担当課出席者 同上
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 記者 1人
- 9 会議概要作成年月日 令和8年8月20日(木)

## 協 議 事 項 等

### 1. 開会

(筒井副会長 開会)

### 2. 会長挨拶

(木村会長 あいさつ)

### 3. 審議会委員の委嘱について

(事務局白鳥政策経営課長 紹介)

勝家 満委員(区長会副会長)について紹介

### 4. 会議事項 (※以下、発言者を ●：委員(会長・副会長含む。)、□：事務局 で表記)

#### (1) 策定方針について

(事務局から、資料1に基づき、策定方針について説明)

(以下、委員からの意見等)

●本日の会議で、計画期間を5年とするのか、従来どおり10年間の基本構想と前期・後期の基本計画で進めるのかを決めるという理解でよい。

□その理解で差し支えない。別の方法があればその選択肢もあり得るが、いずれにしても今後の具体的な計画体系の議論に進むため、本日中午に策定方針を決めたい。

●従来は10年を1単位とし、5年ごとに見直してきたが、考え方や中身が大きく変わることはなかった。

5年ごとに見直しの機会を設けることは、基本的には従来の運用と大きく矛盾しないと考え。特に強い意見がなければ、事務局案の5か年計画で進めることとしてよい。

(異議なし)

事務局案のとおり、5か年計画として策定を進めることとした。

## (2) 基礎調査について

(計画策定支援を行う一般財団法人長野経済研究所から、資料2に基づき第3次安曇野市総合計画基礎調査について説明)

(以下、委員からの意見等)

- 林業従業者数が増加しているとの説明があったが、安曇野市ではどのような分野で増加しているのか。

また、生活系ごみが減少する一方で事業系ごみが増加している要因は何か。

- 林業従業者数の増加要因については、安曇野市では「さとぷろ。」などの事業に取り組み、林業関係に力を入れていることが成果として表れている可能性がある。

事業系ごみの増加要因については、現時点で詳細を把握していないため、担当課に確認し、後日回答する。

- 共働き世帯や核家族世帯が増えている状況を踏まえると、児童館や児童クラブの利用ニーズも高まっていると考える。児童館を利用している子どもの数や、利用を希望しても入れない家庭の状況、希望者数の推移などが分かれば、次回以降で示してほしい。

- 承知した。次回までに数値を調べ、回答できるようにする。

## (3) 市民意識調査について

(事務局から、資料3に基づき、市民意識調査について説明)

(以下、委員からの意見等)

- 都市基盤の設問で水道管について尋ねている。これは今回新たに設けた設問だと思うが、安曇野市としても課題と捉えているのか。

- 担当課が課題感を持っており、意識を確認したかったと聞いている。

- 水道事業について、収入以外の財源で事業を行うことは法律上できるのか。

- 市の一般会計から補填することは可能である。

- 医療・福祉・人権の分野で、障がい者が安心して生活できる地域であるという項目が上昇幅が大きいのは評価できる。

一方で、高齢者に関する項目は2つに分けて考えている。まず生きがいを感じ、質の高い暮らしができるかどうかは、QOLに関わる項目と考えられる。その下の項目は福祉サービスに関する設問として分けられている。

そうすると障がい者の設問も今はひとつだが、上昇した部分がどこなのかを考えた時に生活面か福祉サービス面かが分かるよう、設問を分けたほうがよいのではないか。

- 担当課と相談し、質問を分けることも含めて検討する。

- スポーツや文化・芸術について、文化施設が充実しているという回答が多いが、設問はハード面を問うものが中心であり、ソフト面を十分に聞けていないのではないか。ハード面で回答するしかない。

施設が充実していても、活動内容や参加機会が充実しているとは限らない。少しハード面の設問に偏っていると感じる。

- ソフト事業についても選択肢を見直した方がよいという趣旨か。

- 例えば、モルックなど誰でも参加できるスポーツに触れてみたいか、そうした情報に触れてみたいかといった質問が考えられる。

今の設問だとスポーツの種類がある程度限定されてしまう。新しくみんなが楽しめるスポーツ、みんなが気軽に聴ける音楽や文化などの情報がほしいかのような設問はどうか。

- 今後の設問検討の参考とする。

- 安曇野市の評価の中で自然環境がすばらしい、豊かであるという回答がかなり多い。  
一方で、基礎調査の評価項目では二酸化炭素やごみしかなく、自然環境関連については触れている統計が少ない印象を受けたが、それについてはどのような考えか。
- 我々としても深掘りできていない分野なので、ぜひご意見を伺いたい。
- 基礎調査の中に統計資料を使用した評価という意味では、宅地面積、農地面積の推移の観点を入れるなどの評価もあると現在の安曇野市の現状を評価できるのではないか。
- 対応可能か確認する。
- 「住みたい理由（住んでよかったと感じる点）」について、この設問は非常に大事だと思うが、選択肢をもう少し充実させてもよいのではないか。  
生まれてからずっと住み続けている人だけでなく、移住して来た人もいるので、もう少し細かく色々な選択肢があったほうが、様々な気持ちが読み取れる。もっと色々な人の気持ちが読み取れるように項目を充実してほしい。
- 選択肢に対するバイアスがあり、項目を絞っていた面がある。選択肢の幅を増やすことも検討する。
- 農林水産業として林業と漁業を一括りにするのは適切ではないのではないか。また、農家は一定数存在するため、農家側へのアンケートや質問を行ってもよいのではないか。
- 農林水産業の表記については、今後検討したい。本調査は市民全体を対象としたアンケートである。なお、個別計画の策定に当たっては、別途アンケートを行っている。
- 林業についてはアンケートを行っているか。
- 林業については計画があるが、アンケート等は担当課に確認する。
- 林業従業者数が増加しているとの説明があったため、林業についてはぜひ確認してほしい。

#### (4) R7年度 施策評価について

(事務局から、資料4に基づき、R7年度施策評価について説明)

(以下、委員からの意見等)

- 子どもを育む環境の施策評価では、市民意識調査の「出産・子育てがしやすい地域である」という市民の割合が目標値を下回っている。  
子育て世代が移住しきっていると人口動態では出ていたが、この資料を見ると、子育て環境が整っているから移住しているというより、安曇野市では比較的割安な宅地で新築住宅を建てられるため転入している面もあるのではないか。  
そういう面を今後総合計画にどう当て込んでいくかというのはかなり難しいし、大きなテーマになると思う。  
また、環境を守ってほしいという意見がある一方で、交通を何とかしてほしいという意見もあり、一朝一夕に解決できるものではないと感じるが、総合計画策定の中での大きなポイントになってくる。次回以降審議会で議論していきたい。
- 水利用、水循環、地下水に関する内容が総合計画の中で十分に見えてこない。どのように理解すればよいか。
- 総合計画は市政全体を網羅する上位計画であり、個別計画の内容も包含するものとして整理している。今後の総合計画の検討の中で意見をいただきたい。
- 総合計画は上位計画であり、個別計画では詳しく記載されていると思うが、10年後のビジョンを描く計画であれば、水利用や水循環、地下水といった安曇野市にとって重要な事項はしっかり表現してほしい。
- 従来の計画では水が強調されていた印象があるため、今後の計画策定の中で引き続き注視してほしい。

## (5) その他

＜特になし＞

(事務局)

- ・次回会議は計画の構成案を審議いただく予定である。令和8年11月頃の開催を予定している。今回の審議会意見については次回会議を待たずとも、メール等で送付できればと思う。

## 5. 閉会

(筒井副会長 閉会)